第２８回 篠山再生市民会議 会議録（要旨）

（記録：行政経営課）

■日時：平成２１年3月１３日（金）　１３：３０～１６：１０
■場所：篠山市民センター　２階　催事場
■出席者：篠山再生市民会議委員（４名欠席）
　　庁内調整会議職員
■傍聴者：１名
■会議次第
１　開会

２　協議事項
（１）「篠山再生市民会議を終えるにあたって」について

３　報告事項
（１）平成２１年度予算案について
（２）篠山再生計画にかかる進行管理（案）について
（３）その他

４　閉会

■決定事項等
・「篠山再生市民会議を終えるにあたって」について、訂正等あれば事務局へ連絡し、修正のうえホームページにて公表する。

■議事要旨

１　開会
市長あいさつ
今回の会議が篠山再生市民会議の最終会となるが、長期間にわたり熱心に取組いただき、篠山市の大きな指針を作成いただいたことに大変感謝している。
篠山再生計画を作成することができ、また実行に移すことができていることは、市民の皆さんや職員にも感謝しているが、篠山再生市民会議での熱心な議論と市民に向けてのＰＲにより、市民全体が危機感を持って取り組むことができたからであり、篠山再生市民会議の委員の皆さんに感謝いたすところである。
また、ご指摘いただいているように、計画を策定しただけでは再生ができたわけではなく、これからも見直しを行い、今回の再生計画を最低ラインとして、取組を進めていきたい。また、市議会においても篠山再生計画の推進チェックを行っていただくが、他に「篠山再生計画推進委員会」を立ち上げ、二重三重に篠山再生計画の推進についてチェックして行きたい。
市民の皆さんにあまり心配ばかりしていただくのも困るが、現在の国や社会の状況を見ていると、これからの財政状況が良くなっていくとは想定し難く、今回作成した篠山再生計画を今後無駄なものとしないよう肝に銘じて、これからも取組を進めていきたい。
今日の篠山再生市民会議の最後にあたり、委員の皆さんからこれからの篠山市に対してご意見等をいただきたい。
本当に長い間、熱心に取り組みいただきありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

２　協議事項
（１）「篠山再生市民会議を終えるにあたって」について
（議　長）資料１についてこの場でご意見をいただき、修正すべき点があれば修正のうえ、会議の議事録資料として残してもらおうと考えている。これまで３回答申してきたが、今回は答申にあたるような具体的な内容がないので、市長宛ということではなく、この会議の文書という形にしている。全体的に感想のようになっている

が、前回の会議でいただいた意見や感想を、出来る限り反映したものにしている。

（Ａ委員）市民会議の感想として、後半のまちづくり編においては時間が取れなかったが、行財政改革編において、施設の管理運営や補助金に関して重点的に議論する中で、地域自治組織のあり方といったまちづくりの新しい形についても議論が出来ていたのではないか。再生計画を実行していくことで、お金をかけずにまちづくりをしていくという、今日的な課題を篠山で解決できるかを試されていると感じており、改めて覚悟をしている。

（Ｂ委員）職員定数の適正化など、答申と策定された計画に違いのある部分はあるが、やるべきことをひとつひとつ実行できるのであれば、これ以上付け加える項目はないと感じている。進行管理の面において、環境の変化など色々な部分で計画内容が少しずつ消えてしまうということがないように、行政内部だけではなく市民と協働して、１年ごとでも見直しをきちんとしてもらいたい。

（Ｃ委員）答申作成の過程で、行政の情報が公開されたり、市民へ市の状況を伝えていくことができたのではないか。市に要望するだけではなく、連携して、地域をよくするために自ら何ができるのかということで、行動し始める市民も出始めてきたと感じている。

（Ｄ委員）欧州に比べ、日本の自治体は人件費が高く労働効率が低いようだが、職員　１人がどれだけのサービスを提供できるかが大切。地域に入っていくのであれば、地域内現地で問題解決できるように、裁量権を与えるべきで、持ち帰って集約して判断するのでは責任が曖昧になるし、効率が悪くなる。新しい仕組みづくりのモデルを作りたかった。

（Ｅ委員）林業の問題について、これまで議論できなかった部分で「産業」の中に含まれるかと思うが、農業が基幹産業であることに異論はないが、林業は忘れがちになるので、強調してもらいたい。

（Ｆ委員）築城４００年祭や農都宣言が、「財政破たんという暗いイメージ」から抜け出すきっかけとなり得るのかどうか疑問である。

（議　長）直接財政状況の改善に結びつかないかもしれないが、明るい話題として、市民が前向きにまちづくりに参画していくことで盛り上がりを見せ、間接的にでも、財政破たんというイメージから抜け出せることができればという思いである。
　農都宣言については、環境や農林業に注目が寄せられ始めているなか、機を捉えているかと思うが、時代の流れにうまく乗ることができれば、再生のチャンスがあるのではないか。

（Ａ委員）築城４００年祭については一過性のイベントではなく、これから１００年のまちづくりをしていくための新しい祭りと位置付けており、大きな予算もないことから、住民主体のまちづくりを始めるきっかけとしていきたい。城址周辺のイベントに限らず、まちづくり協議会等が主体となって、まちづくりに関するフォーラム等を企画されている地域もある。
　なお、「都市再生」という文言は、「地方再生」という表現が合うのではないか。

（議　長）終えるにあたっての文書は具体的な提言内容がないため、市長に宛てた文書とはしていないが、再生市民会議で成しえなかったことについては、市へ投げかけている。議長名と併記して委員一同からの発信ということで、意見をいただいた部分を修正のうえ、公表することとしたい。

３　報告事項

（１）平成２１年度予算案について

（事務局）［資料２－１、資料２－２を用いて説明］

（議　長）以前の財政収支見通しと異なる点はどこか。

（事務局）基本的にはほとんど変わっていないが、歳入では市税が減収見込みである点と、歳出では投資的経費が3億円程度減少した点が挙げられる。

投資的経費については、国の経済対策として生活対策臨時交付金の4億5千万円が追加配分され、主に投資的経費に充てるということで、4億5千万円全てではないが、平成21年度当初に予定していた救急車の更新や学校の耐震化について、平成20年度3月の補正予算に計上したため、平成21年度当初予算が減少している。投資的経費へ交付金を充てたことによって、浮いた一般財源については、できれば公債費の繰上げ償還に充てていきたい。

（２）篠山再生計画にかかる進行管理（案）について

（事務局）［資料３を用いて説明］

（Ｂ委員）再生計画の推進にあたり、委員会は年１回の開催ということだが、１年間の改革状況の評価も含めた議論が必要ではないか。

（議　長）推進委員会設置の「案」となっているが、いつ「案」が取れるのか。

（事務局）具体的に協議いただく内容等は、いただいたご意見等を参考に、これから検討していきたい。３月２５日の議会にて予算が可決されるまでは「案」ということになる。

（Ｅ委員）推進委員会では、前年度取組実績の確認、財政収支見通しの確認、取組計画についての提言の３項目を１日で行うということか。

（Ｄ委員）再生計画の実行状況や進捗状況等について、市民への情報公開はどのようになされるのか。

（事務局）会議開催に係る経費としては、年２回分の予算を組んでいる。

また、今回予算について広報紙等で示したように、予算、決算の公表時期には、再生計画行財政改革編の収支見通しなり、まちづくり編の内容の反映状況を示していく。

（Ｃ委員）目標が達成できてうまくいった事例のほか、うまくいかなかった項目についても、原因を究明してもらいたい。行政内部だけでなく、市民や外部の目線で評価することにより、内部ではなかなか議論できない部分について、突っ込んだ議論ができるのではないか。

（事務局）市長も市民や第３者的な方のご意見をいただきながら、厳しい分析や評価を進めていくという意向である。公募委員については、自治基本条例に則り、２名以上の枠で募集する予定である。

（Ｇ委員）推進委員会を市民委員を交えて組織するなら、経緯説明と内容の協議で年に２回は必要ではないか。

また、総合計画審議会や他の委員会との棲み分けはどうなるのか。

（Ｅ委員）財政的な面の確認のために、行財政に専門的な知識がある方等を委員にするのであれば、１回でも十分かもしれない。

（Ｄ委員）広報紙なりホームページで公表される進捗や評価の報告に、市民の意見や提言を反映する仕組みがあれば推進委員会は要らないと思うが、なければこの委員会で定期的に市民の意見を取り入れるようにできないか。

（議　長）市民委員の意見を吸い上げるのであれば、開催回数は少ないだろう。専門的知識をもっている人で委員構成するならば、少人数で１回程度でもいいかもしれないが、この案の段階では、推進委員会の目的が曖昧だと感じる。
　また、他の審議会や委員会の役割を整理したうえ、連携させ、機能させていく必要がある。

（事務局）推進委員会はあくまで案として検討している段階だが、引き続き再生計画に対してご意見をいただきたいという主旨である。

（Ａ委員）行政が行う評価としては、事務事業評価や人事評価、また投資事業評価といった事務があるが、一般に、市は「評価をした」ということになりがちだし、それぞればらばらに動いている部分もある。それらを整理して実効性のあるシステムにしていきたい。平成21年度は総合計画を検討する時期に来ているので、できるだけ前段でPDCAを回す枠組みを行政で検討し、整理したうえで、９月に再生計画推進委員会を始めるまでに、役割や総合計画との関係についてお示ししたい。総合計画自体が再生計画を色濃く反映したものになるはずなので、密接な関係が出てくると考えている。

（議　長）市民会議としては、再生計画は３年間で終わりだが、全く別の総合計画を作るのではなく、当然引き継いだものにしてもらわないと、何のために議論してきたのか分からない。再生計画の進行管理や評価の話も、ゆくゆくは総合計画へ繋がるものとして提言している。
　現行の外部評価委員会や行財政構造改革委員会も整理したうえで、計画の評価をし、それを検証して、進行管理に繋げていくという仕組みを取り入れていくのが重要ではないか。この２年間で、次期総合計画にどういった仕組みを取り入れていくかという議論をしてはどうか。とりあえず推進委員会を作って年１回確認して、意見を聞く、というだけでは何かに活かされるとは思えない。
　個人的には、同じメンバーでの馴れ合いを避けるためにも、今後の推進委員会からはしばらく距離を置こうと考えている。また将来何かの機会に、みなさんと一緒に仕事ができれば嬉しいと思う。

（副議長）推進委員会には、公募委員を入れた、という事実だけで「市民の声を聞いた」とするのではなく、委員会が機能するよう、再生計画の進行状況をきちんと分析できる方を入れてもらいたい。委員の選定基準は、協議内容にもよるかと思うので、進行管理の内容を練り上げてから進めてもらいたい。

（Ｇ委員）何ができて、何ができていないのか市民に示し、数年後の市民にも「かつての財政危機は何事もなかった」ということではなく、緊張感を持ってもらえるようにしていきたい。
　まちづくり協議会への一括交付金について、単に構成団体や自治会へ再分配してしまうのではなく、まちづくり協議会の一定の自由裁量の中で、必要な事業を立案し実行できているか、目的に沿った効果的な交付金になっているか、といった評価も必要ではないか。

（議　長）評価の仕組みの上に進行管理の仕組みをつくり、さらにそれらの仕組みを導入するだけではなく、きちんと機能させることが肝心である。

―以上―